

N E X T 商店街プロジェクト



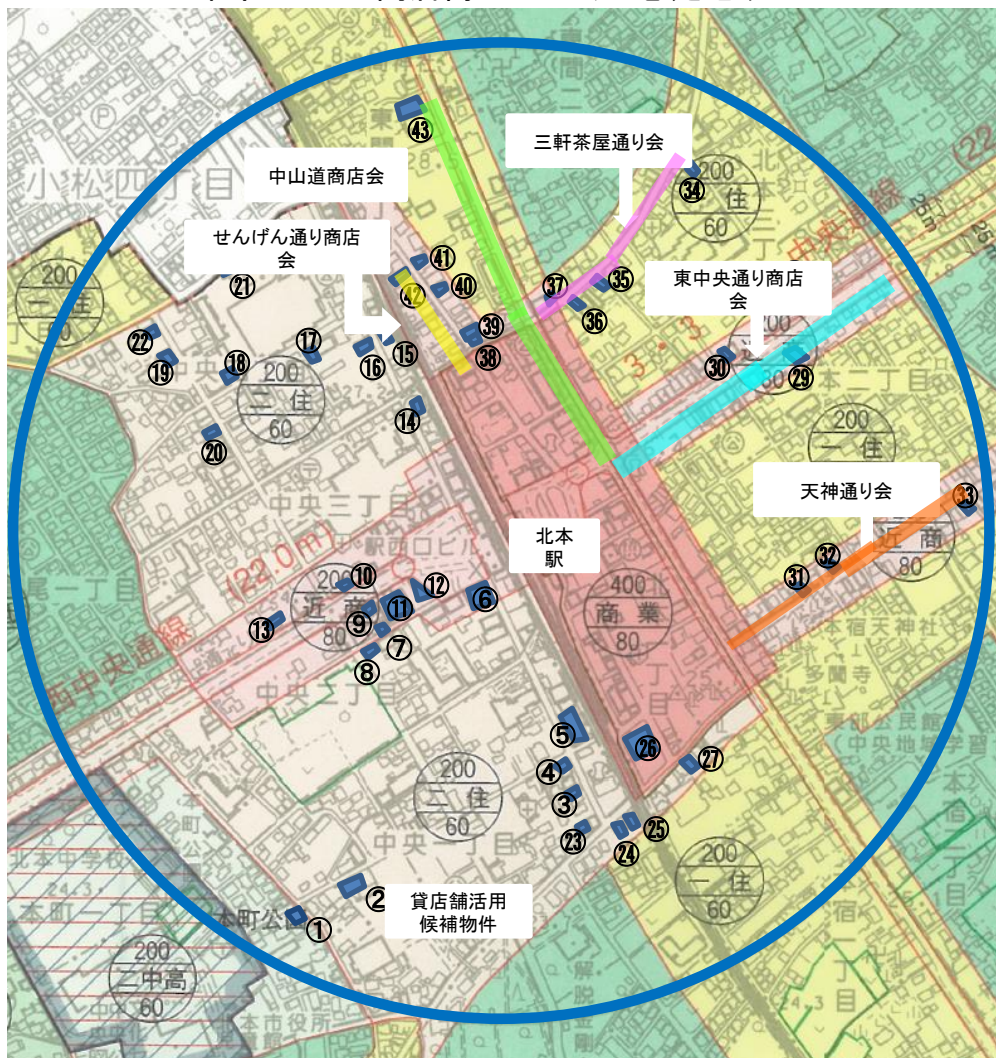
北本市の取組



2020年3月26日
北本市地域経済推進課

対象地域

北本市 NEXT商店街プロジェクト想定地域



対象地域における商店街の概要

□商店街数 5

□加盟店舗数

- ・せんげん通り商店会 7店舗
- ・中山道商店会 8店舗
- ・三軒茶屋通り会 15店舗
- ・東中央通り商店会 20店舗
- ・天神通り会 11店舗

□構成

- 飲食 4%
- 小売 44%
- サービス 20%
- その他 32%

※円は北本駅から半径500m

数字は空き店舗の箇所を示す(平成30年10月現在)

課題と対応方針

背景～現状分析～

- ・郊外に大型スーパーの出店拡大
- ・商店街の衰退
(単発的イベント/後継者不足/意欲低下)
- ・空き店舗の増加⇒中心市街地の空洞化

○個店の存在意義は？



個店の必要性～理想の北本～

- ・空き店舗の減少⇒地価の上昇
- ・大型店にはない魅力
- ・豊かな暮らし(選択肢が増加)
- ・中心市街地の賑わい
- ・お店をきっかけとしたまちへの愛着
- ・**買い物くコミュニケーション**
- ・コミュニティの形成⇒波及効果
⇒エリアとしての価値の向上
- ・生業があること
⇒豊かな暮らしと仕事の両立

思い～なぜやるのか～

- ①インターネットにはない**魅力的な個店**を増やしたい
魅力的とは？...お店とお客さんやお客さん同士がコミュニケーションを取ることができ、地域に必要とされる存在であること
⇒購買以上の価値⇒暮らしの豊かさ
- ②中心市街地のエリアとしての価値の向上
空き店舗が埋まる⇒地価の向上
新規出店⇒人が集まる⇒新規出店の連鎖

エリアとしての
価値の向上

作戦～なにをやるのか～

チーム
づくり

エリア

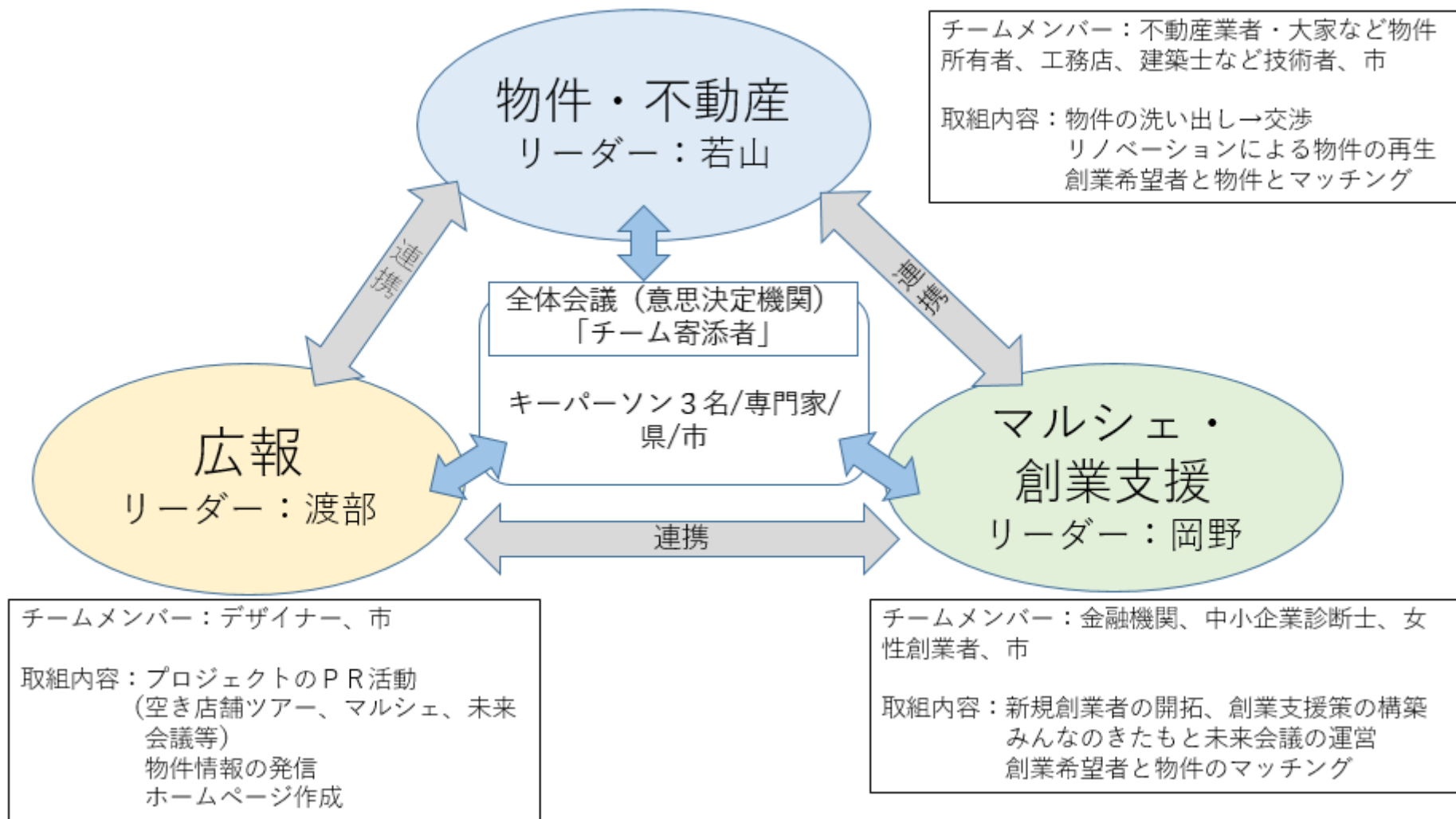


駅から半径500m

きたもと未来会議

- ①学びとコミュニケーションの場
⇒北本はどんなまちだったらいい?(共有)
⇒こんなまちはどう?(学び)
- ②人材発掘
⇒プロジェクトに主体的に関わる仲間を増やしたい

構成図



今年度の取組（まとめ）

みんなのきたもと未来会議開催

プレイヤー発掘と
情報共有の場

マルシェ「みどりといち」開催

賑わいづくりと
チャレンジ出店

暮らしの編集室ウェブサイト公開

情報をプールする
プラットフォーム

シェアスペース「ケルン」プレオープン

自走化のための
活動拠点整備

取組

みんなの北本未来会議の開催

～行きつけのお店、ありますか？～

～働くこと、暮らすこと～

みんなのきたもと未来会議 ②

議題
行きつけのお店、ありますか？



7/7(日) みんなでまちを考える。きたもと未来会議。第二回のテーマは「行きつけのお店」です。今かよっているお気に入りのお店の話もいろいろ、昔あったお店の思い出話も聞けると思います。なにもない方もあつたが嬉しい。未来のお店のことも考えてみましょう。暮らしの間にいつもある、あなたの「行きつけのお店」を教えてください。

物件ツアー 15:00 - 16:50
未来会議 17:00 - 19:00
会場 清水ソコピダセンター
会費 無料

(参加の申込みは北本市市民経済部 地域経済推進課 048-594-5530 担当/黒澤まゆみまでご連絡ください。)



内容・目的・成果

内容:参加者がフラットな立場でまちのこれからを語るオープンミーティング

目的:まちづくりの課題の共有やプロジェクトに賛同するプレイヤーの発掘

成果:これまで行政単独で実施してきたまちづくり会議ではアプローチができなかった属性をもつ人材が現れ、プロジェクトに主体的に関わるプレイヤーの発掘につながった

取組

マルシェ「みどりといち」の開催



内容・目的・成果

内容: 公共空間(市役所敷地)を活用し、中心市街地内でマルシェイベントを実施

市内産農産物の販売・市内中心に22店舗の出店・音楽ライブ同時開催

創業希望者によるチャレンジ出店の枠組み

目的: 対象地域内における賑わいづくり・チャレンジ出店を通じたノウハウの蓄積

成果: 集客力のある店舗が出店することで多様な客層との接点が生まれ、

チャレンジ出店者が「プレ創業」というフェーズを経験する機会を創出することができた



取組

ウェブサイト立ち上げ



内容・目的・成果

内容: プロジェクトに関するイベント情報や物件情報の発信

目的: 情報のプラットフォームの整備・取組をアーカイブすることでこれまでの歩みを可視化

成果: プロジェクトに関する情報が一元化され、自走化のための情報面の土台ができた

取組



ケルン外観

活動拠点「ケルン」の整備



お披露目会の様子(2/21)

内容・目的・成果

内容: 1Fをシェアキッチン、2Fをシェアスタジオとしてチームメンバーでリノベーション

目的: 創業希望者に向けたチャレンジショップ機能や個人のスキルを発揮する場所の提供

地域における空き店舗活用のモデルケースを創出し目に見える変化を起こす

成果: 自走化に向けた拠点づくりが完成し、何かチャレンジしたい人がこの拠点を通じて

プロジェクトに関わることができる「場所としてのプラットフォーム」を整備できた

効果（KPI）の達成状況

KPIの内容	今年度目標値	実績	補足
空き店舗ツアーの実施	2回	2回	
創業希望者とのマッチング件数	1件	0件	
新規出店者数	1件	8件	
マルシェ実施回数	2回	1回	コロナウイルスの影響により1回中止
ウェブサイト立ち上げ	1件	1件	10月より公開
未来会議実施回数	3回	2回	コロナウイルスの影響により1回中止

自走に向けた課題

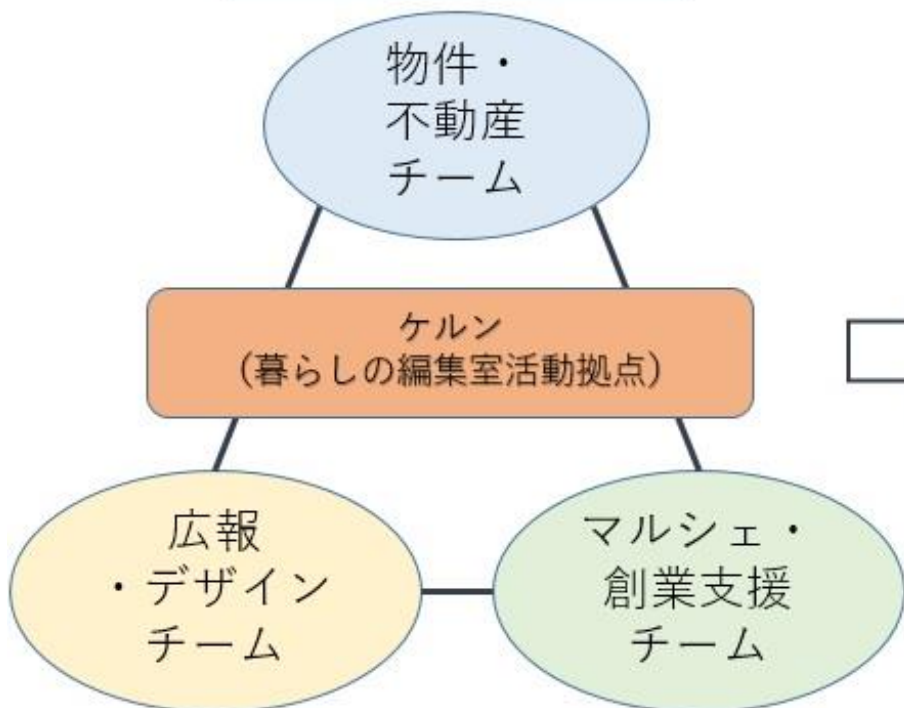
- プレイヤーの発掘が難しく創業希望者数の分母が少ないため、
創業希望者と物件のマッチングに至らなかった
- 活用可能な物件の獲得に想定以上の労力を要したため、物件をウェブサイトで
掲載できていない
- やる気ある地元商店主の更なる巻き込み

来年度の方針

- 空き店舗解消を目指した
行政による創業支援⇒プロジェクトで確保した空き店舗の活用⇒新しい店舗の開店
といった一連のサイクルの構築
- 地域において先行事例となる、空き店舗を活用した自走できるビジネスモデルの構築
- 北本市で創業したいと思う理由やメリットを提示するための独自の創業支援策の研究
- ウェブサイトに掲載できる物件を確保し、創業希望者に訴えかける素材を増やす
- 地元商店主とよりコミュニケーションを図り空き店舗活用を通して地域への波及効果を高める

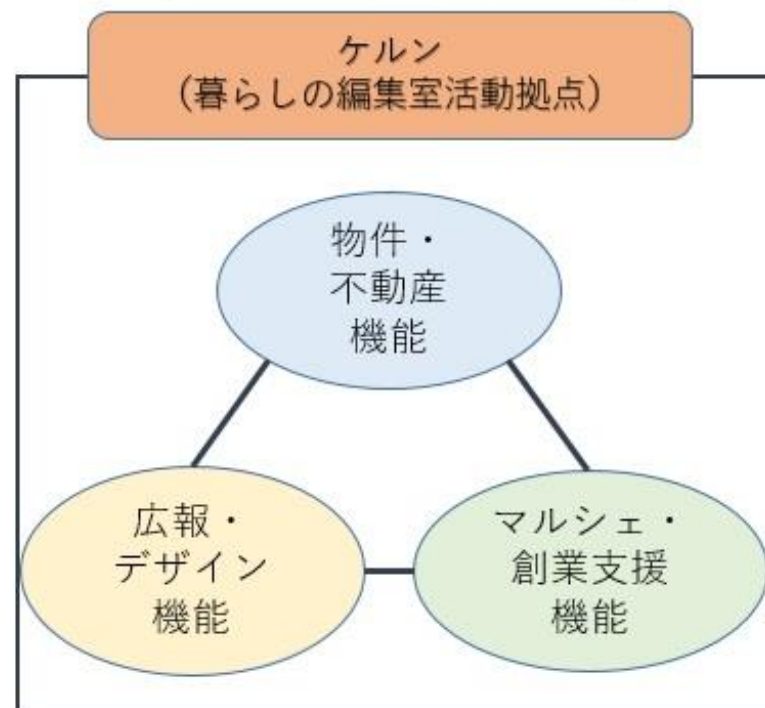
自走化の仕組み

令和2年度実施体制



3つのチームそれぞれの活動の結果
ケルンが「暮らしの編集室」の活動拠点として整備される

令和3年度以降自走体制



ケルンという活動拠点の中に「暮らしの編集室」の3つの機能が集約・内包され自走する